

コーパス分析からみた大学英語教科書

吉田 国子

英語読解力をつけるためには継続的な語彙学習が欠かせない。しかし一般的な学生にとって、日常生活の中での英語のインプット源は、授業で使う教科書のみであるという場合も多い。そこで本稿では、大学英語教科書をコンコーダンスソフトウェアで分析し、収録されている語彙リストを作成し、どのような単語がどれくらい使われているのかを調査する。続いてこの語彙リストを学習が推奨されている単語リストと照合し、どの程度一致しているのかを調べる。得られた結果から、教科書のみをインプット源とする学習の問題点と今後の語彙指導の方向性を探っていく。

キーワード：語彙学習，コーパス，単語リスト

1 はじめに

英語文書を読んで深く理解する流暢な読解には、語彙力、文法・構文の知識、背景知識が必要である。その中でも語彙力は読解力の67%を説明する要素であるとされる[1]。それでは英文を流暢に読むためには、どれくらいの語彙力が必要なのだろうか。ある研究によると、ネイティブスピーカー向けに書かれた自然な英文を読むとき、約1700語の語彙力があれば、英文の約75%が既知の単語となり、約10000語の語彙力では約95%は既知の単語になるという[2]。英語学習者を対象とした研究では、読解の際の閾値を5000語レベルとするものが多い。日本人英語学習者を対象とした研究でも、やはり安定した読解力のためには、5000語レベルの語彙力が必要であるという[3]。しかしながら、現在、中学校、高等学校で学ぶ英単語総数は見出し語で2300語程度であるという。大学までの学校教育では、閾値である5000語レベルへの到達は遠い目標に感じられるに違いない。では、学生にとって身近な目標である各種英語検定試験ではどの程度の語彙力が要求されているのであろうか。

日本で行われている英語試験での語彙力は、まとめると表1のようになる。

東京都市大学では、2010年から全学的な統一目標を掲げた都市大スタンダード英語カリキュラムがスタートした。そこでは2年次終了時まで、TOEIC400点相当の英語力をつけることを全学生に求めている。語彙力に限ってみれば、上記表から算定すると、約3600語の単語を習得することをめざしていることになる。

表1 英語スタンダード試験における想定語彙数

語彙数	英検	TOEICへ換算した点数
約1300語	4級	
約2100語	3級	200-400
約3600語	準2級	400-540
約5100語	2級	540-640
約7500語	準1級	740-840
約10000~15000語	1級	960-990

英語に興味があつて独学に励む少数派の学生を除いて、一般的な学生は英語授業外では自ら進んで英語を読んだり聞いたりすることをほとんどしない。そうした学生にとって英語の授業で使われる教科書が、唯一の語彙の導入源になっている。こうした状況下では、授業で使うテキストは学習素材として重要な役割を担うことになる。そこで本稿では、過去2年間本学の授業で採用した英語リーディングとリスニングの教科書について扱っている語彙に焦点を当て、到達目標としている語彙数3600語を量的、質的に満たしているかどうかをコーパス分析によって明らかにすることを目的とする。続いて得られた結果から、今後の語彙指導の方向性を考察する。

2 分析の対象および方法

本研究で分析したのは、リスニング教材であるInterchange 2 [4]とImpact Listening 2 [5]、リーディング教材であるReading Pass 3 [6]とReading Fusion 2 [7]である。分析のツールとして、早稲田大学のLaurence Anthony氏が開発したコンコーダンスソフトウェア、AntConc ver. 3.2.1を用いた。分析においては、Word List 検索でのべ単語数

(Tokens) と異なり語数(Types)を検出する。続いて、そこで得られた教科書単語リストを、日本人英語学習者にとって重要な英単語リストとして大学英語教育学会(JACET)が編纂している JACET8000(2005)と照合し JACET8000 単語リスト中のどのレベルの単語とどれくらい一致しているか、一致率を算出する。この JACET8000 単語リストは、世界最大のコーパスである British National Corpus (収録語数1億語)を基準として、日本の中学校、高等学校、TOEIC、TOEFL、英検、口語なども含めて作られたもので、日本人英語学習者が学習することを推奨される語彙集ととらえることができるものである。

3 分析結果

3.1 Word List 検索結果

Word List 検索機能を使って対象教科書4誌を分析したところ、表2のような結果が得られた。

表2 教科書ごとの異なり語数と延べ語数

教科書	異なり語数(語)	延べ語数(語)
Interchange 2	2794	38023
Impact Listening 2	1718	14126
Reading Pass	2367	25358
Fusion word 2	3832	31073

リスニングが中心ではあるが、話す、読むなどの技能も含めた総合教材の要素も強い Interchange 2 は異なり語数が2800語であるのに対し、会話体を中心としたリスニング教科書である Impact Listening 2 では、1700語にとどまっている。一方、リーディング教材の Reading Pass と Fusion 2 では、収録ユニットが多い分延べ語数、異なり語数ともに Fusion 2 の方が多くなっている。

実際の指導現場では、リスニングの授業とリーディングの授業は1週間に1回ずつ行われる。

2010年度は、Interchange 2 と Reading Pass、2011年度は Impact Listening 2 と Fusion 2 が使用された。そこで、教科書を組み合わせしてみた場合どのような数値になるのか、再度分析した。表3に示すのがその結果である。

表3 リスニングとリーディング教科書をペアにした場合の異なり語数と延べ語数

教科書	異なり語数(語)	延べ語数(語)
Interchange 2 と Reading Pass	3312 (総語数 3706 語のうち、固有名詞等を抜いた語数)	63381
Impact Listening 2 と Fusion 2	4150 (総語数 4448 語のうち、固有名詞等を抜いた語数)	45199

異なり語数は、Interchange 2 と Reading pass の組み合わせで3312語、Impact Listening 2 と Fusion 2 の組み合わせで4150語となる。異なり語数を単語のバリエーションだとすると、Interchange 2 と Reading pass の組み合わせではやや足りないものの、目標数である3600語を一応満たしているように見える。しかしどのような単語が使われているのかが学習に際しては重要である。

そこで次に、異なり語数の検出で得られたリストを JACET8000 リストと照合し、どのレベルの単語がどれくらい用いられているのか分析した。

表4 JACET8000 単語リストとの適合率

	Interchange & Reading Pass	Impact Listening 2 & Fusion 2
異なり語数(語)	3312	4150
1000語レベル中の語彙数(適合率)	955 (95.6%)	976 (97.6%)
2000語レベル中の語彙数(適合率)	1640 (82%)	1703 (85.2%)
3000語レベル中の語彙数(適合率)	2057 (68.6%)	2197 (73.2%)
4000語レベル中の語彙数(適合率)	2250 (56.3%)	2557 (63.9%)
5000語レベル中の語彙数(適合率)	2399 (48.0%)	2761 (55.2%)

表4が示すように、1000語レベルでは学習を推奨される英単語リストにあつて、教科書に登場しない単語はどちらの組み合わせでも5%以下であるが、レベルが上がるにしたがつて推奨リストの単語の出現率は下がっている。目標語彙数の3000語から4000語レベルでみると、教科書でカバーできる語彙は学習推奨語彙の約6割を占めるのみとなる。また、読解の閾値である5000語レベルでみると、教科書に出現するのは50%程度になってしまう。これはつまり、語彙学習のためには、教科書以外のリソースが必要であることを示している。

3.2 学習推奨リストにあるが教科書に出てこない語彙群

学習が推奨されているけれど教科書には登場しない単語、つまり必要だとされているが学習の機会が少ない単語はどのようなものだろうか。学習推奨4000語の語彙の中で、今回調査した教科書4誌のいずれにも登場していない単語は合計1072語であった。これらの中には、次のような分類ができる単語が含まれている。

A 日常生活に関わりの深い単語

finger, left, milk, wine, finger, fox, frog など日常生活に深いかかわりのある単語で、教科書で扱われていないものが多数ある。大学英語リーディング教科書の素材は、新聞、雑誌記事からの抜粋や書き下ろしの論説文が大半を占める。リスニング教科書では日常生活の場面が取り上げられるが、必要な語彙をすべてカバーできるわけではない。そのために身近ではあるが、学んだことがない単語群が存在する。

B 接頭語、接尾語が重要な単語群

administration, allocation holder, narrator, uncertainty, uncertainty, exclude など、接頭語の un..., ex..., 接尾語の ...tion や ...er, or の意味が分かれば、理解しやすくなる単語群がある。

C 特定のジャンルで多く出現する単語群

boundary, bullet, bomb, missile など国際紛争、戦争に関連する単語群や gaze, nod, pause shrug などフィクションではよく使われる単語群がある。これは上記Aで述べたように、リーディング教科書の素材は多くの場合論説文であり、小説や報道記事が使われることが少ないことに由来すると考えられる。

4 語彙指導へ向けて

4.1 語彙指導の際の留意点

前項3の分析結果から、流暢な読解のファーストステップとなる3000-4000語の語彙力獲得のためには、教科書以外のインプット源が必要であることがわかった。また、教科書には出現しないが学習推奨リストには載っている単語群の中には、何らかの特徴を持つものもあることがわかった。これらの結果を指導に反映していくには、どのような方法が可能であろうか。そもそも、語彙指導に関して留意すべき点はどのようなことだろうか。指導に当たって心に留めておくべき点がいくつか考えられる。

第一は「単語を知っている」ということは、長期記憶に特定の語に関する知識が複層的に重なって格納されていることを意味する[8]。複層的な知識とは、単語の意

味を知っている、単語のスペルを知っている、単語の発音を知っている、単語が文章の中でどのように使われるか知っている、単語がどのような語と共起するのか知っている、単語の使われる適切な範囲を知っている、他の単語との意味上の結びつきを知っている、単語の使用頻度を知っている、である。

語彙指導における第二の留意点は、外国語として英語を学ぶ学習者は最初から完成された層を成した単語知識を持つわけではないことである。新出語として単語に出会い、その後数回遭遇することによって、単語ははじめて頭の中に定着する。定着していく過程で、浅い層の知識だったものが、深い層の知識へと積み上げられていくのである。教科書の中で新出単語は意味やスペル、発音などが提示される。学習者が数回にわたってその単語と関わることでその語に関する記憶が強化され、共起や使用範囲、意味上のつながりなどの深い知識が獲得される。新出語は定着させるための働きかけがないと記憶から消えていく。

第三の留意点は、語彙学習には単語リストや単語カードを作って語彙を獲得することを目的とした意図的な学習(explicit learning)と多読や多聴の結果付随的に起こる学習(incidental learning)があり、両者が互いに補完することにより効果的な語彙学習が可能になることである。単語は文脈とともに提示される方が記憶に残りやすい。だとすると、学習者が意図的な学習を行っている単語が、読んだり聴いたりしている素材の中に含まれており、意味を理解する過程で語彙知識が強化される、といったプロセスを数度繰り返すことができれば、単語の定着をうながすことができよう。また逆に、読んだり聴いたりして意味内容を理解した素材の中から未知語を選び出し、リストやカードで学ぶことで定着を図ることも可能であろう。

4.2 今後の語彙指導へ向けて

本稿で見てきた現況の教科書の語彙実態、語彙指導の際の留意点から、語彙指導の方向性がある程度示唆される。それは、学生が教科書以外のジャンルの英語を読み、聴く機会を作ること、読み聴きした英語の中で未知語を学生が意図的に学ぶような仕組みを用意すること、読み聴きする英語はある程度学習推奨リストの語彙によってコントロールされているものにする、単語知識が多層化するように意図的、付随的な学習が交互に起こるように促すことである。

そして最も大切なことは、学生が自主的に学べるように、学生自身の学びをサポートする環境を作ることである。時間的な制約がある中、まとまった時間を語彙獲得に特化した指導に充てられないのが現実ではある。そんな中、語彙に関する研究を続け、学生が獲得目標語彙数

の 4000 語に近づけるような道筋を作っていきたいと考えている。

参考文献

- [1] Quan, D.: Investigating the relationship between vocabulary knowledge and academic reading performance: An assessment perspective. *Language Learning*, 52, 2002
- [2] Grabe, W.: *Reading in a second language: Moving, theory to practice*, Cambridge University Press, 2009
- [3] 門田修平&池村大一郎 (編著): *英語語彙指導ハンドブック*, 大修館書店, 2006
- [4] Richards, J.: *Interchange 2*, Cambridge University Press, 2005
- [5] Robbins, J. & MacNeill, A.: *Impact Listening 2*, Pearson ESL, 2001
- [6] Bennett, A.: *Reading Pass*, 南雲堂, 2009
- [7] Bennett, A.: *Fusion 2*, 南雲堂, 2011
- [8] Nation, I. S. P.: *Teaching and learning vocabulary*, Newbury House, 1990